

AND関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

AND関数・OR関数の「役割」を理解する

AND関数・OR関数の「役割」を理解する

AND/OR関数は「論理関数」と呼ばれ、それ単体では「判定」しかできません。

「〇〇だったらAを出す」といった処理はできず、TRUE（真）か FALSE（偽）を返すだけです。

関数	役割	イメージ
AND	すべての条件を満たすか判定	「全員一致」で TRUE
OR	いずれかの条件を満たすか判定	「誰か一人でもOK」で TRUE

💡 この「判定結果」を、次のスライドの「実行役」である IF関数に渡すのが、最も重要な使い方です。

IF関数との「合体」パターン

IF関数との「合体」パターン

IF関数は、「もし〇〇だったらA、そうでなければB」を実行する関数です。この「〇〇」の部分（論理式）に、AND/OR関数をそのまま入れ込みます。

=IF(判定役となる論理式,[TRUEの場合],[FALSEの場合])

パターン1:AND(両方の条件を満たす場合)

「国語(B2)が80点以上 かつ 数学(C2)が80点以上」なら "合格"

=IF(AND(B2>=80, C2>=80), "合格", "不合格")

パターン2:OR(どちらかの条件を満たす場合)

「曜日(B2)が "土" または 曜日が "日"」なら "休日"

=IF(OR(B2="土", B2="日"), "休日", "平日")

【実践】 AND と OR を組み合わせる

【実践】AND と OR を組み合わせる

IF関数の中に、ANDとORを同時に入れることで、より複雑な実務の条件分岐も可能になります。

シナリオ： 会員ランクが「ゴールド」または 会員ランクが「一般」かつ 購入回数が5回以上の場合は
"特別割引" と表示したい。

数式： `=IF(OR(B2="ゴールド", AND(B2="一般", C2>=5)), "特別割引", "通常")`

解説：

`OR( ... )` の中に、

- 1つ目の条件: `B2="ゴールド"`
- 2つ目の条件: `AND(B2="一般", C2>=5)`

を入れることで、「ゴールド会員」か「お客様（一般会員）」かを判定しています。

【応用】IFS関数で、ネストをスッキリさせる

【応用】IFS関数で、ネストをスッキリさせる

`=IF(AND(...), "A", IF(AND(...), "B", ...))` のような複雑なネスト（入れ子）は、IFS関数を使うと劇的に分かりやすくなります。

シナリオ：「売上（B2）」と「契約件数（C2）」の2軸でランクを判定したい。

ランク	条件
S	売上100万以上 かつ 契約10件以上
A	売上 80万以上 かつ 契約 5件以上
B	それ以外

IFS関数を使った数式：

`=IFS( AND(B2>=1000000, C2>=10), "Sランク", AND(B2>=800000, C2>=5), "Aランク", TRUE, "Bランク" )`



ポイント：IFS関数は「条件，結果」のペアを上から順に判定していきます。

最後に TRUE を入れることで「それ以外すべて」をカバーでき、エラーを防げます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。